

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス LUMO武蔵野校	公表日	2025年2月28日		
評価項目	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	改善や改善すべき点
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		必要以上の施設費はかからないよう工夫。また、履修に必要な道具などは運動場以外はお子様の出入らないよう配置
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		指導者・本部ヘルプ指導者、定員のない人員を補充。朝礼や朝礼の後に共修し、適切な配置で支援を行うようコミュニケーションを調整している	適切な配置が必要な場面もあるが、新たに知るスタッフにもスムーズに指導できるようなこと
3	生活習慣は、こどもにわかりやすく掲示された状態になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	スタッフ間で観ることで出来る範囲は行っている。	カーテンがない事、電気代に関しては削減が必要となる
4	生活習慣は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空調になっているか。		○	毎日の清掃。特に土曜や祝日などを行っている	カーテンなど準備し、より運動に集中できるようにする
5	必要に応じて、こどもが個別の経路や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		ゲームプログラムできるように、支援室と個別の部屋があること	個別の経路が1箇所と限りがあること
6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）を、広く職員が学習しているか。	○		スタッフ間でコミュニケーションをとる機会を創出して実行している	毎日実施していないスタッフに学習を促していくことが求められる
7	保護者向け評価表により、保護者等の意向を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的なアンケートを実施。アンケート結果をもとに可能な範囲で実施している	毎日実施していないスタッフに学習を促していくことが求められる
8	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員などをもとにスタッフ間でコミュニケーションをとる機会を創出して実行している	毎日実施していないスタッフに学習を促していくことが求められる
9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		情報科とコミュニケーションがマージャーを通して、業務の改善を期している	毎日実施していないスタッフに学習を促していくことが求められる
10	職員の資質の向上を図るために、研修を支援する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保しているか。	○		毎月、毎月行われる研修に参加し支援の質向上を図っている	毎日実施していないスタッフに学習を促していくことが求められる
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		目的を持ってプログラムの作成を行えている。また、運動メニューや活動記録を整理して公表している	新しく追加したスタッフにも共有を行い、スムーズに業務の支援プログラムを作成できるようにする
12	様々なこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を具体的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		スタッフ間で個別な支援計画を作成している	全員での参加が難しい。また、在籍者が影響する事
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者がだけでなく、こどもの支援に関わる職員が協議の下で、こどものニーズや課題を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリングなどを通して、理解を深めている	空席での参加が難しい。また、在籍者が影響する事
14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
15	こどもの発達行動の状態を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者の同意を事前にアセスメントシートを記入してもらい子どもも同意の状態を確認している	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの運営すべき原則」の本人支援、「個別支援」、「相互交流」、「地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインに沿った支援に必要な項目を適切に設定している	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員や研修、支援室の場で各々の専門性を確認している	プログラム作成は難しい。より良いものを作るまで待つ必要がある
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		他職種とのコミュニケーションや研修等での連携を推進。固定化しないよう工夫を行っている。また専門性を活かしながら応用している	引き続き連携で支援の質を向上していく必要がある
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適切に組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、実行されているか。	○		職員や研修、支援室の場で各々の専門性を確認している	在籍者が多いスタッフのため、事前の準備が少なくならないように工夫している
20	児童発達支援センター職員や行政職員、そのほか関係する支援の内容や役割分担について認識し、チームで連携して支援を行っているか。	○		職員や研修、支援室の場で各々の専門性を確認している	在籍者が多いスタッフのため、事前の準備が少なくならないように工夫している
21	支援終了後は、職員間で必ず振り返りを行い、その日行った支援の振り返りを行い、見つけた点を共有しているか。	○		職員や研修、支援室の場で各々の専門性を確認している	活動後の振り返りが難しいこと
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の進捗の必要性を判断し、適切な対応を行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、計画の進捗の必要性を判断し、適切な対応を行っている	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がなされている等、自己決定を促すための支援を行っているか。	○		支援中は科目に合わせてコミュニケーションを必要ながる前決定を促す力を養えるよう行っている	
26	障害児者支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議し、そのこどもの状況をよく理解した上で実施しているか。	○		運動指導している指導員又は児童が参加している	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を確保しているか。	○		保護者の方や保護者、学校などから情報があった場合は連携して支援を行う体制を確保している	関係機関と定期的な連携は行っていない
28	学校との連携が（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時の確保等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者を通して対応。電話、LINEの活用もできるようにしている	緊急時の対応が迅速な対応をより明確に連携し必要がある
29	学校等に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有や相互連携が図られているか。	○			基本的には情報共有は行っていない
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。	○			基本的には情報共有は行っていない
31	地域の児童発達支援センターとの連携を行い、必要に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			行っていないため協議で検討していく必要がある
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		毎日対応時にコミュニケーションを取るように行っている	活動の時間のみだと情報で限られており交流が図れていない
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			参加できていない
34	自慢のこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		個別対応のサポートを行う際に、発達状況や課題について共通理解を促すよう工夫している	共有が難しいが共有することで連携が深まる
35	保護者の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		お子様や家族の状況によって有益な観点などは提供できるようにスタッフ間でコミュニケーションをとっている	ご家族に共有が難しいが共有は行っている
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	
37	放課後等デイサービス提供を内定する際には、こどもと保護者の意思の尊重、こどもの権利の利益の優先考慮の観点に基づき、こどもと保護者の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の意向と相談を行い、子どもや家族の意向を確認する機会を設けている	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を創出しているか。また、まようだ列士会で交流する機会を創出する等も実施しているか。	○			行っていないため協議で検討していく必要がある
41	こどもと保護者からの関係について、対応の体制を整えるとともに、こどもと保護者に寄り添い、信頼がもたらされる関係に適切に対応しているか。	○		朝礼や朝礼の時間を活用しながら全体に寄り添い、信頼を築くよう工夫している	毎日実施していないスタッフに学習を促していくことが求められる
42	定期的に連絡等を実施することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもと保護者に対して発信しているか。	○		主にLINEやブログを用いて活動概要や行事予定を共有している	全員が認知できるようにプログラムが必要となる
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いに留意しては保護者等に共有する観点から慎重に扱っている。またスタッフ間で共有しないが関係の向上を図っている	
44	障害のあるこどもと保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		様々なツールを用いてご利用者様に合った支援に努めている	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか。	○			行っていないため協議で検討していく必要がある
46	事故防止マニュアル、緊急連絡マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を制定し、職員や家族等に周知するとともに、発生想定した訓練を実施しているか。	○		定期的に実施することができるようプログラムとして取り組む体制を整えている。また、定期的にリーダーを軸にトレーニングで全員での共有を行っている	
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、復旧等の必要な訓練を行っているか。	○		定期的に実施することを想定して訓練を実施している。また、訓練内容を職員全員に届けており、スタッフ間で共有を行っている	
48	事前に、避難や予防訓練、てんかん発作等のこどもの状況を把握しているか。	○		発作時保護者の方にアセスメントやフェイスシートを記入してもらい確認を行っている	
49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の処方箋に基づく対応がされているか。	○		運動時注意の厳格な対応。おやつや飲み物の提供は行っていない	
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な研修を講じる等、安全管理が十分な中で実施が行われているか。	○		定期的に訓練を行い安全管理が出来るよう研修や訓練を実施している。また、スタッフ間で共有を行い安全管理の徹底にも努めている	
51	こどもの安全確保に際して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく助言等について、家族等へ周知しているか。	○			
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討している	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待を防止するための、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもと保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に反映しているか。	○			